



あかるく元気な子 だれにも親切な子 しっかり考える子 ことばを大切にする子



実るほど 頭を垂れる 稲穂かな

○地域ではもう稲刈りも進み、きれいに刈り取られた田の畦には真っ赤な彼岸花が咲き誇っています。柿の実も色づき始め、まさに実りの秋を迎えようとしています。



「実るほど頭を垂れる稲穂かな」という有名な言葉があります。稲は、苗の状態から、実を付けるまでは、頭を垂れる事はありません。上へ上へと、ぐんぐん伸びていきます。しかし、稲の穂は実るほどに穂先が低く垂れ下がってきます。その姿を見て、人間も同じだよと教えてくれているのがこの言葉です。



○みなさんは、まさに稲が苗から実を結ぶまでの姿と同じように、運動会に向けて「主体性」を発揮しながらぐんぐん成長してきました。また、その成長ぶりには目を見張るものがありました。

そして、本番。その頑張りが見事に実を結び、みなさんの胸の中は、「やりきったぞ!」という満足感と充実感とでいっぱいになったことでしょう。

○でも、ここからです。その「やりきった感」を、「自分一人の力でできたものだ」と過信してしまっただけではありません。それでふんぞり返って、「自分には何でもできるんだ」とえらそうにしていたのでは、「誇り高きあだっこ」とは言えません。

「実るほど頭を垂れる稲穂かな」の言葉のように、みなさんも成長すればするほど謙虚な姿勢で人と接することが大切です。



○今年の運動会は、自分一人の力でできたものではありません。一緒に活動してきたなかまのおかげ、指導して下さった先生方のおかげ、支えて下さった保護者の方々や地域の方々のおかげだということを忘れないようにしたいものです。美しい日本語に「おかげさま」という言葉があります。似た意味ではシンプルな「ありがとうございます」がありますが、その「ありがとう」の思いをより丁寧に、「あなたの協力がなくては、自分だけではなしえなかった」といった意味を込めた言葉が「おかげさま」なのです。私たちは、多くの人の支えで生きています。豊かな現代社会に暮らしていると、当たり前のあるがたさを随分と忘れがちですが、「おかげさま」の気持ちは常に持ち続けたいものです。

そう考えたとき、運動会で、優勝した赤組や準優勝となった白組を互いに拍手でたたえ合う姿や、それまで忙しくてできなかった登校後の落ち葉掃除をすぐに再開した姿は、この「おかげさま」の心がきちんと身に付いている「誇り高きあだっこ」の姿と言えるのではないのでしょうか。



「おかげさま」

上所 重助

夏が来ると「冬がいい」と言う
冬が来ると「夏がいい」と言う
太ると「痩せたい」と言い
痩せると「太りたい」と言う
忙しいと「暇になりたい」と言い
暇になると「忙しい方がいい」と言う
自分に都合のいい人は「善い人だ」と言い
自分に都合が悪くなると「悪い人だ」と言う

借りた傘も 雨が上がれば邪魔になる
金を持てば 古びた女房が邪魔になる
所帯を持てば 親さえも邪魔になる

衣食住は昔に比べりゃ天国だが
上を見て不平不満の明け暮れ
隣を見て愚痴ばかり

どうして自分を見つめないのか
静かに考えてみるがよい
一体自分とは何なのか

親のおかげ
先生のおかげ
世間様のおかげの固まりが自分ではないか
つまらぬ自我妄執を捨てて
得手勝手を慎んだら
世の中はきっと明るくなるだろう

「俺が」、「俺が」を捨てて
「おかげさまで」、「おかげさまで」と暮らしたい